

グローバル・フィンテック株式ファンド

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第5期(決算日2021年12月7日)

作成対象期間(2020年12月8日～2021年12月7日)

第5期末(2021年12月7日)

基準価額	29,261円
純資産総額	208,859百万円
第5期	
騰落率	△ 7.6%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル・フィンテック株式ファンド」は、2021年12月7日に第5期の決算を行いました。

当ファンドは、主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されているフィンテック関連企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<643335>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

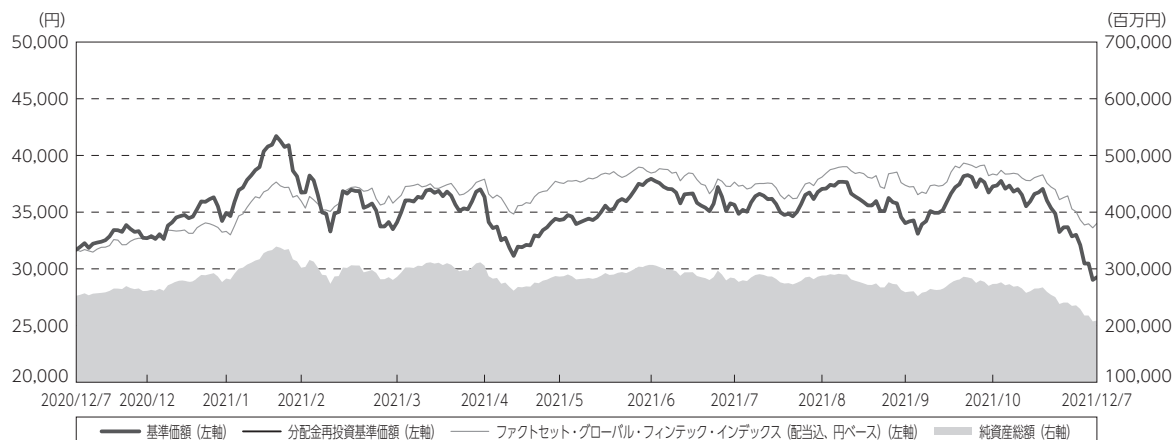
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2020年12月8日～2021年12月7日)



期首：31,680円

期末：29,261円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 7.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス(配当込、円ベース)は、期首(2020年12月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス(配当込、円ベース)は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「グローバル・フィンテック株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- 新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による経済正常化期待や、好調な米中マクロ経済指標、米国の大型追加経済対策期待などを背景に株式市場で良好なリスクセンチメントが続いたこと。
- 好調なマクロ経済指標や企業業績動向などを背景に主要株式市場がブロード株を牽引役として上昇を続けたこと。
- 米国の債務上限問題を巡る懸念や中国不動産大手のデフォルト(債務不履行)懸念の後退などからセンチメントが回復し、市場が再び上値を追ったこと。
- 経済正常化期待や、米国の早期テーパリング(量的緩和の縮小)、米国の長期金利の上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

- ・世界的な金利上昇懸念などからテクノロジー株を中心に利益確定の売りが台頭したこと。
- ・サプライチェーン（供給網）問題や、インフレ圧力、中国の不動産開発大手のデフォルトリスクなどが市場の下押し材料となったこと。
- ・欧州圏における新型コロナウイルスの感染再拡大や新たな変異株の出現が懸念されたこと。

1万口当たりの費用明細

(2020年12月8日～2021年12月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	680	1.925	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(330)	(0.935)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(330)	(0.935)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(19)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	14	0.041	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(14)	(0.041)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	8	0.024	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(8)	(0.024)	
(d) そ の 他 費 用	10	0.028	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(7)	(0.020)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(2)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(1)	(0.004)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.001)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	712	2.018	
期中の平均基準価額は、35,337円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

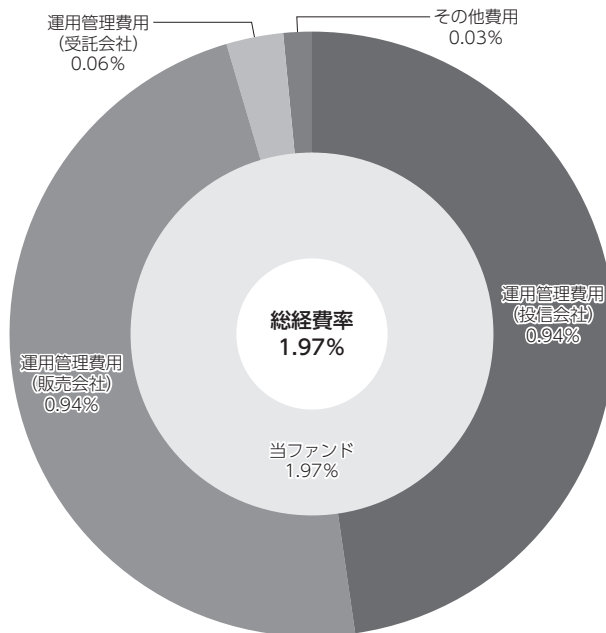
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まれます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.97%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年12月7日～2021年12月7日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス(配当込、円ベース)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2016年12月16日です。

	2016年12月16日 設定日	2017年12月7日 決算日	2018年12月7日 決算日	2019年12月9日 決算日	2020年12月7日 決算日	2021年12月7日 決算日
基準価額 (円)	10,000	13,893	14,748	17,216	31,680	29,261
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	38.9	6.2	16.7	84.0	△ 7.6
ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス(配当込、円ベース)騰落率 (%)	—	25.8	5.2	17.4	26.2	7.4
純資産総額 (百万円)	1,843	161,105	203,923	173,479	252,507	208,859

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2017年12月7日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス(配当込、円ベース)は当ファンドの参考指数です。
- 参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

(2020年12月8日～2021年12月7日)

(株式市況)

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて大きく上昇しました。

期間の初めから2021年1月末にかけては、新型コロナウイルスのワクチン接種の開始を受けた経済正常化期待や、好調な米中マクロ経済指標、米国の大型追加経済対策期待などから良好なリスクセンチメントが続き、欧米における新型コロナウイルスの感染急拡大や変異株の出現などをこなしつつ、市場は高値を迫る展開となりました。

その後、2月から3月にかけては、ワクチン接種の進展などから世界的な経済正常化期待が高まり、米国金利を始め世界的な金利上昇ペースの加速懸念などからテクノロジー株を中心に利益確定の売りが台頭しました。しかし、米国の大型追加経済対策や欧米のマクロ経済指標の改善などを下支えに、上値は重いながらも市場は高値圏を維持して堅調に推移しました。

4月から8月末にかけては、金利の上昇一服感や各国の経済指標の上振れなどを受けて景気回復の本格化への期待が高まり、主要株式市場は再び上値を迫る展開となりました。デルタ型変異株の感染拡大や、世界的なインフレ過熱懸念、中国政府による産業規制強化懸念などのノイズをこなしつつ、グロース株を牽引役に上昇基調が続きました。

しかしその後9月は、米国の年内テーパリング開始観測が広がるなかで、サプライチェーンの不足問題や、景気減速懸念、エネルギー価格の急騰や物価上昇圧力などがセンチメントの悪化要因となりました。中国の不動産開発大手のデフォルトリスクや米国長期金利の上昇を受けたテクノロジー株への売り圧力も下押し材料となり、市場は上昇一服となりました。

10月から11月中旬にかけては、米国の債務上限問題を巡る懸念や中国不動産大手のデフォルト懸念の後退などからセンチメントが回復しました。新型コロナウイルスの経口薬の開発進展や良好な企業業績なども好材料に市場は大きく反発し、再び上値を迫る上昇となりました。期間末にかけては、欧州圏における感染再拡大や新たなオミクロン型変異株の出現からやや下落しましたが、主要株式市場は期間の初めと比べて大きく上昇して期間末を迎えました。

為替市場では、経済正常化期待を受けたリスクセンチメントの改善や、米国の早期テーパリング、米国長期金利の上昇を織り込んでアメリカドルや主要通貨に対して円安が進み、円ベース・リターンを大きく押し上げる結果となりました。

(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2020年12月8日～2021年12月7日)

(当ファンド)

当ファンドは、「グローバル・フィンテック株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(グローバル・フィンテック株式マザーファンド)

期間中、ポートフォリオでは市場の調整局面を利用して主な売買を行ないました。市場が調整されると、伝統的な資産運用会社は短期的なリスク管理のために安全なベンチマーク構成銘柄に再配分し、非構成銘柄を無差別的に売却します。不均衡に売られたこうした銘柄をしばしば購入してポートフォリオを最も確信度の高いポジションに集約し、市場から不当な恐怖心が消えたときに更なる成長に向かうよう備えました。

ポートフォリオでは主に以下の取引を行ないました。

2012年の設立以来5,600万人以上のユーザーを抱える、世界最大級の暗号資産取引所運営／Coinbase Global, Inc. (各種金融) について新規ポジションを構築しました。投資家からの信頼性が高く、効率的かつ派生的な暗号資産取引を提供する同社が、暗号資産の市場規模に比例して拡大していくことを期待しています。また、業務自動化への長期的な追い風を受けるポジションにあると評価する、RPA (ロボティックプロセスオートメーション) プラットフォーム／UiPath, Inc. (ソフトウェア・サービス) についても新規ポジションを構築しました。自動化はファンドの重点テーマであり、30兆アメリカドルの価値を創出する可能性があると予想するAI (人工知能) が近い将来、ビジネス・オートメーション分野に適用されると考えています。加えて、垂直統合型のテクノロジースタック (テクノロジーの組み合わせ) によって、オンラインスポーツ賭博分野における市場シェアを拡大すると見込む、米国のファンタジースポーツ大手プロバイダー／Draftkings Inc. (消費者サービス) を新規購入しました。米国のオンラインスポーツ賭博のTAM (獲得可能な最大市場規模) は、合法化する州が増えるに従って現在の10億アメリカドルから2025年には180億アメリカドル超の市場に成長すると考えています。

一方、中国政府が住宅市場への投機規制を発表するなど不動産市場への広範な規制強化の動きが見られることに鑑みて、中国最大の不動産取引・サービス統合プラットフォーム／KE Holdings, Inc. (不動産) についてポジションの解消を進めました。また、中国政府の産業規制強化を受けて、中国の関連銘柄 (ネット・eコマース大手／アリババ・グループ・ホールディング (小売)、eコマース大手／Meituan (小売)、ネット専門損害保険／ZhongAn Online P&C Insurance Co Ltd (保険)、オンライン医療大手／Ping An Healthcare And Technology Company Limited (ヘルスケア機器サービス)) について全売却を進めたほか、中国ネット・サービス大手／騰訊控股 [テンセント・ホールディングス] (メディア・娯楽) などについても一部ウェイトの引き下げを行ない、より確信度の高い銘柄群への投資に振り向けました。

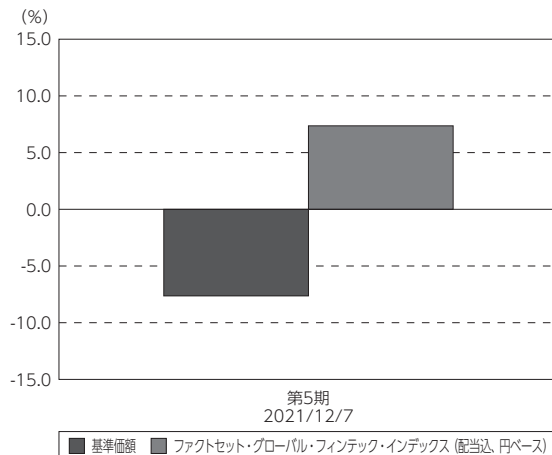
当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年12月8日～2021年12月7日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
 (注) ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス（配当込、円ベース）は当ファンドの参考指数です。

分配金

(2020年12月8日～2021年12月7日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第5期
	2020年12月8日～ 2021年12月7日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	19,260

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル・フィンテック株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

(グローバル・フィンテック株式マザーファンド)

テクノロジーによって実現したイノベーションや費用曲線の低下に伴なう特定のデフレ要因は、中長期的にフィンテック企業の売上高や生産性、収益力を押し上げると考えられます。これらの企業は、モバイル決済・機器、AI、クラウド、ブロックチェーン技術などに基づく戦略を土台に従来以上に利益を上げると予想されます。特に、米国で数千万人、世界で数十億人のユーザーが利用するデジタル・ウォレット(モバイル決済)サービスは単なる支払い機能以上の変容を遂げており、今や富裕層向けサービス、保険、銀行、クレジットカードのような個人ローンなどの多様な金融サービスへ繋がる玄関口になりつつあります。低い顧客獲得コストや独自データを備え、そしてクロス・セリング(組合せ販売)の機会に富むことから、投資家は従来の銀行サービスをしのぐプレミアムでこれを評価するとみられます。その結果、過去10年余りの間に実店舗を主力とする従来型小売がネット販売に押されたのと同様に、価格交渉力や預貸利ざやといった旧来のビジネス形態に依存する従来型金融サービスの多くがバリュー・トラップ(割安株が割安のまま放置され期待リターンが得られにくくなること)に陥る可能性があるかと予想しています。また、これらの革新的なテクノロジーによる生産効率の向上によりインフレ率は予想より低位で推移すると考えられ、長期金利は過去水準まで上昇しない可能性があるかとみています。

当ファンドでは引き続き、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されているフィンテック関連企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。株式の銘柄選定にあたっては、金融サービスとテクノロジーの融合を十分に活かし、グローバル経済におけるあらゆる取引に衝撃を与えることを模索している銘柄を選好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

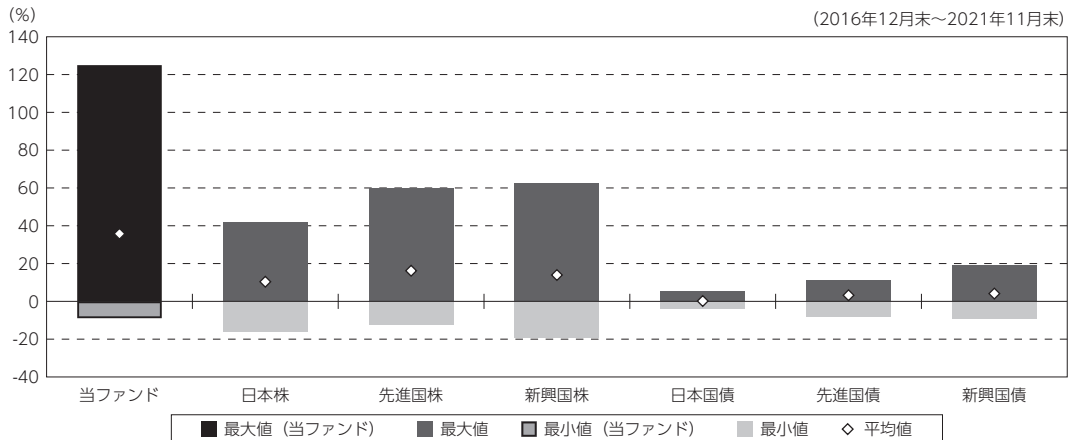
2020年12月8日から2021年12月7日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2016年12月16日から2026年12月7日までです。	
運用方針	主として、「グローバル・フィンテック株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	グローバル・フィンテック株式ファンド	「グローバル・フィンテック株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・フィンテック株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
運用方法	主として、「グローバル・フィンテック株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。スマートフォンアプリなどを通じた、最新の情報技術を活用した「新たな金融サービス」の提供に関連する企業を投資対象とします。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行ないません。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	125.0	42.1	59.8	62.7	5.4	11.4	19.3
最小値	△ 8.9	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 4.0	△ 7.9	△ 9.4
平均値	35.8	10.4	16.2	13.9	0.2	3.2	4.1

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年12月から2021年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2017年12月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドの参考指数について

●ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス (配当込、円ベース)

ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス (配当込、円ベース) は、ファクトセット社が開発した世界のフィンテック関連企業の株式で構成された米ドルベースの指数を、日興アセットマネジメントが円換算したものです。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが開発し、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年12月7日現在)

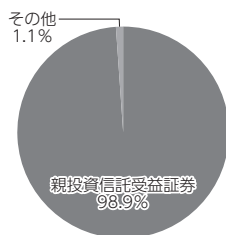
○組入上位ファンド

銘柄名	第5期末
グローバル・フィンテック株式マザーファンド	98.9%
組入銘柄数	1銘柄

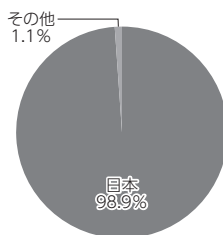
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

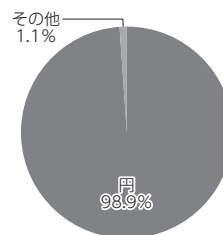
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

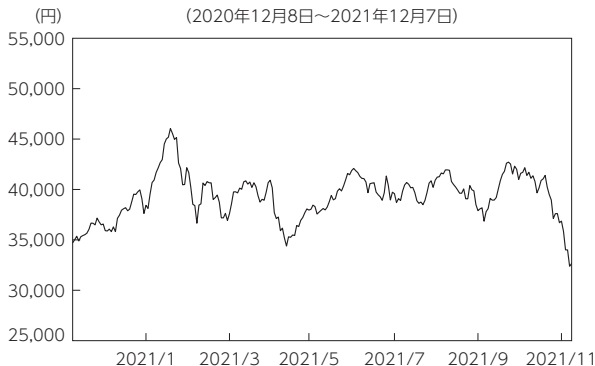
項目	第5期末
	2021年12月7日
純資産総額	208,859,812,383円
受益権総口数	71,378,370,922口
1万口当たり基準価額	29,261円

(注) 期中における追加設定元本額は26,331,851,040円、同解約元本額は34,657,845,427円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル・フィンテック株式マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2020年12月8日～2021年12月7日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	16 (16)	0.041 (0.041)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	9 (9)	0.024 (0.024)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	8 (8) (0)	0.021 (0.020) (0.001)
合計	33	0.086

期中の平均基準価額は、39,146円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

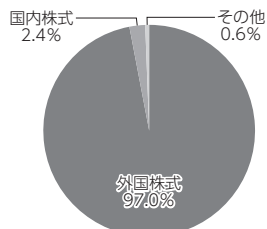
【組入上位10銘柄】

(2021年12月7日現在)

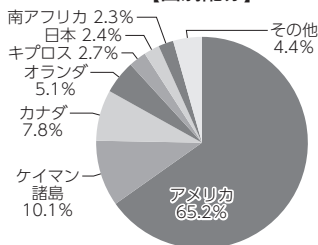
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	各種金融	アメリカドル	アメリカ	8.0
2	SHOPIFY INC - CLASS A	ソフトウェア・サービス	アメリカドル	カナダ	7.8
3	SQUARE INC - A	ソフトウェア・サービス	アメリカドル	アメリカ	7.5
4	TWILIO INC - A	ソフトウェア・サービス	アメリカドル	アメリカ	6.1
5	ADYEN NV	ソフトウェア・サービス	ユーロ	オランダ	5.1
6	UIPATH INC - CLASS A	ソフトウェア・サービス	アメリカドル	アメリカ	4.2
7	SEA LTD-ADR	メディア・娯楽	アメリカドル	ケイマン諸島	4.0
8	TELADOC HEALTH INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカドル	アメリカ	3.4
9	ROBINHOOD MARKETS INC - A	各種金融	アメリカドル	アメリカ	3.4
10	ETSY INC	小売	アメリカドル	アメリカ	3.0
	組入銘柄数		42銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

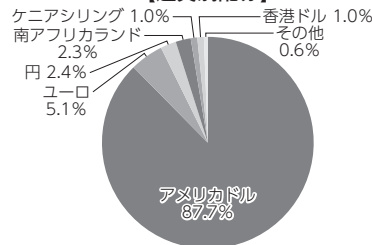
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
 ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

グローバル・フィンテック株式ファンド

【貸借対照表】

(単位:円)

	第4期 2020年12月7日現在	第5期 2021年12月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	6,679,360,031	5,578,990,645
親投資信託受益証券	249,494,070,089	206,610,700,910
流動資産合計	256,173,430,120	212,189,691,555
資産合計	256,173,430,120	212,189,691,555
負債の部		
流動負債		
未払解約金	1,593,524,870	646,748,004
未払受託者報酬	58,848,395	76,202,325
未払委託者報酬	2,000,847,431	2,590,881,224
未払利息	4,062	2,800
その他未払費用	13,045,275	16,044,819
流動負債合計	3,666,270,033	3,329,879,172
負債合計	3,666,270,033	3,329,879,172
純資産の部		
元本等		
元本	79,704,365,309	71,378,370,922
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金(△)	172,802,794,778	137,481,441,461
(分配準備積立金)	110,440,278,570	71,380,948,870
元本等合計	252,507,160,087	208,859,812,383
純資産合計	252,507,160,087	208,859,812,383
負債純資産合計	256,173,430,120	212,189,691,555

【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第4期 自 2019年12月10日 至 2020年12月7日	第5期 自 2020年12月8日 至 2021年12月7日
営業収益		
受取利息	3,298	491
有価証券売買等損益	124,104,282,207	△8,706,503,644
営業収益合計	124,104,285,505	△8,706,503,153
営業費用		
支払利息	1,147,263	631,976
受託者報酬	102,650,006	155,566,661
委託者報酬	3,490,104,301	5,289,270,654
その他費用	16,555,059	22,393,914
営業費用合計	3,610,456,629	5,467,863,205
営業利益又は営業損失(△)	120,493,828,876	△14,174,366,358
経常利益又は経常損失(△)	120,493,828,876	△14,174,366,358
当期純利益又は当期純損失(△)	120,493,828,876	△14,174,366,358
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額(△)	25,678,714,272	10,954,164,391
期首剰余金又は期首欠損金(△)	72,713,314,420	172,802,794,778
剰余金増加額又は欠損金減少額	48,329,749,577	67,462,163,710
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	—	—
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	48,329,749,577	67,462,163,710
剰余金減少額又は欠損金増加額	43,055,383,823	77,654,986,278
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	43,055,383,823	77,654,986,278
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	—	—
分配金	—	—
期末剰余金又は期末欠損金(△)	172,802,794,778	137,481,441,461